

1 国語

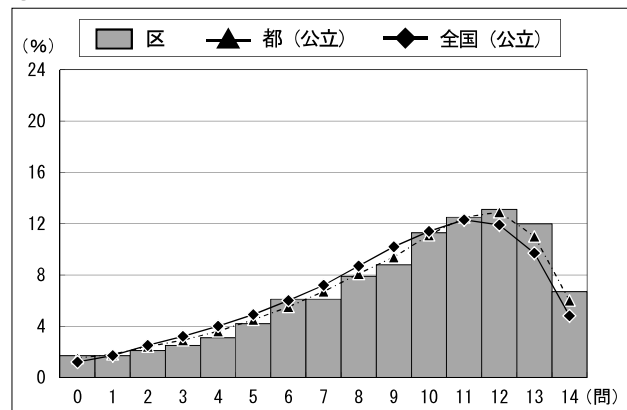
(1) 小学校国語

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	66	65	63.8
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	74.1	73.1	72.3
	書くこと	3	56.7	55.4	54.5
	読むこと	3	83.5	83.0	81.7
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	5	57.0	55.7	53.5
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	58.7	57.2	57.6
	話す・聞く能力	3	74.1	73.1	72.3
	書く能力	3	56.7	55.4	54.5
	読む能力	3	83.5	83.0	81.7
	言語についての知識・理 解・技能	5	57.0	55.7	53.5
	問題 形式	選択式	7	77.3	76.7
	短答式	4	52.6	51.1	48.7
	記述式	3	58.7	57.2	57.6

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



小学校国語の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「書く能力」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

今年度の領域別、観点別、問題形式別の分類において、区平均正答率は全て都平均および全国平均を上回っている。領域別で区平均正答率が低い区分は「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」である。また、観点別においては「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」の区平均正答率が低かった。そして、問題形式別においては「短答式」「記述式」の区分の区平均正答率が低かった。

誤答の多かった設問は、決まった条件の下である程度の長さの文章を書いて解答する記述式であった。誤答の傾向としては、ふさわしい表現で書いていない、あるいはふさわしい表現で書いているものの、設問が示す条件を満たしていないことが挙げられる。また、既習の漢字を書く設問においても誤答が多かった。

これらの結果から、設問が示す条件を確実に把握すること、設問の主旨に沿ってある程度の長さで適切に文章を書くこと、既習の漢字を身に付けるための語彙力に課題があると言える。

【授業改善の手だて】

指導領域「書くこと」に焦点を当て、目的や意図に応じて、読み手に分かりやすい文章を書く力を高める指導を充実させることが必要である。児童は日常的に様々な文章を書くことに取り組んでいる。しかし、授業において、示された条件を満たして長文を書くという学習活動に取り組むことはそれほど多くない。

そこで、目的に応じて、条件を満たした上で書く活動を意図的に取り入れることが大切である。具体的には、「新聞やリーフレットなど、分量や形式の規定が明確なもの」「意見文や説明文など、自分の主張を伝える読み手が定められているもの」といった作品を作る目的を明確にし、児童が意識して取り組むことができるような学習活動を授業に取り入れていくことが考えられる。

また、教師が具体的な条件（「低学年に伝えることを想定して書こう」「具体的な例を二つ挙げて書こう」など）を提示して文章を書かせるようにすることも有効な手だてである。

さらに、そうして仕上がった作品が多様な語彙を活用して書かれているか、適切な表現を用いているかを確認したり、児童同士で刺激し合ったり認め合ったりするために、児童相互で作品を見合う必要もある。

このような学習活動を、国語科のみならず、各教科・領域においても意図的、計画的に設定し、繰り返し行うことによって定着を図ることが期待される。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点					領域	問題の概要	正答率(%)				
		関	話	書	読	言			知	活	区	都(公立)	全国(公立)
1一	選			○			○	○	書くこと	公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	74.8	72.9	71.2
1二	選			○			○	○	書くこと	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「(2) 公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか」における書き方の工夫として適切なものを選択する	64.7	65.0	63.4
1三	述	○		○				○		公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	30.7	28.3	28.8
1四(1)ア	短						○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしよう)	40.3	42.2	41.9
1四(1)イ	短						○	○		公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部イを、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)	72.5	71.5	69.4
1四(1)ウ	短						○	○		公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——部ウを、漢字を使って書き直す(かんしんをもってもらいたい)	44.3	39.8	35.6
1四(2)	短						○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□の1文を、接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す	53.5	51.1	47.8
2一(1)	選			○			○	○	読むこと	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□□に入る、疑問に思ったこと①の①に対する答えとして適切なものを選択する	84.2	83.5	80.7
2一(2)	述	○		○				○		食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の□□に、疑問に思ったこと②の②に対する答えになるように考えて書く	78.1	77.0	75.9
2二	選			○			○	○	読むこと	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	88.1	88.4	88.5
3一	選			○			○	○	話すこと・聞くこと	量職人への【インタビューの様子】の□□に入る、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する	83.8	83.0	81.3
3二	選			○			○	○		量職人への【インタビューの様子】の□□□□の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する	71.3	70.2	67.4
3三	述	○		○				○		【インタビューの様子】の□□に、量職人の仕事への思いや考えに着目して心に残ったことを書く	67.3	66.2	68.2
3四	選						○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ことわざの使い方の例として、【ノートの一部】の□□に入る適切なものを選択する(習うより慣れよ)	74.3	74.1	73.0

【問題形式】(選)選択式、(短)短答式、(述)記述式

【評価の観点】(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【従来の区分】(知)「知識」に関する問題、(活)「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)									
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答
大問1 三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	30.7	0.1	10.5	16.0	7.2	8.4	0.7	0.7	21.6	4.1

【解答類型】凡例：999…解答として求める条件を全て満たしている正答

999…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】公衆電話について調べたことを【報告する文章】を読み、文章全体の構成を踏まえた上で、「3 調査の結果をもとに考えたこと」の空欄に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く問題である。正答するためには、(1)と(2)の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書く、【報告する文章】にふさわしい表現で書く、書き出しの言葉に続けて、40字以上、70字以内で書くという三つの条件を満たしている必要がある。区正答率は30.7%と全設問中で最も低かった。誤答のうち、【報告する文章】にふさわしい表現で書いていないものが10.5%、【報告する文章】にふさわしい表現で書いているものの、(1)からのみ、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いているものが16.0%見られた。

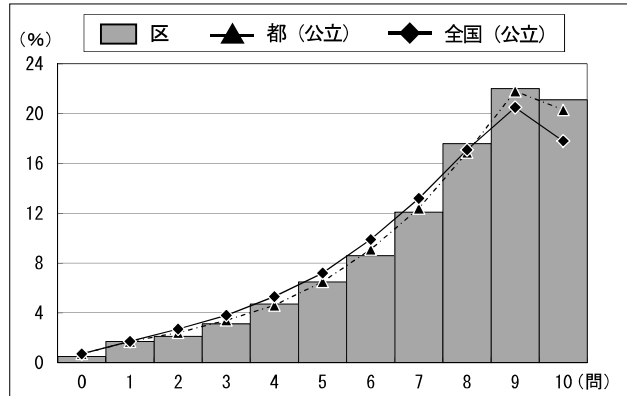
(2) 中学校国語

1 結果概要

① 領域・観点別正答率表

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			区	都 (公立)	全国 (公立)
全体		10	75	74	72.8
学習指導 要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	72.4	72.2	70.2
	書くこと	2	84.2	83.0	82.6
	読むこと	3	74.8	74.3	72.2
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	2	71.1	69.6	67.7
評価の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	77.9	77.1	76.5
	話す・聞く能力	3	72.4	72.2	70.2
	書く能力	2	84.2	83.0	82.6
	読む能力	3	74.8	74.3	72.2
	言語についての知識・理 解・技能	2	71.1	69.6	67.7
問題 形式	選択式	6	76.2	75.7	73.6
	短答式	1	61.4	59.4	56.8
	記述式	3	77.9	77.1	76.5

② 正答率度数分布 (横軸：正答数、縦軸：割合)



中学校国語の区平均正答率は、都平均および全国平均をいずれも上回った。

観点別に見ると、「言語についての知識・理解・技能」に課題が見られた。

2 課題と授業改善の手だて

【課題】

設問2三の区正答率は、62.3%と6割を超えているものの、全設問中で二番目に低く、都平均の62.5%と比べても低い結果となっている。無解答率は7.0%と全設問中で最も高かった。これは本区の生徒のみに特徴的な傾向ではなく、都および全国でも同様の結果となっている。この設問では、【話し合いの一部】を読み、話し合いの話題や方向を捉える力や、未解決の部分に気づき、それを解決するための具体案を考える力、そして実際に話すように書くという文語体と口語体を使い分けて書く力が必要になってくる。

さらに、設問1四の区正答率も61.4%と低い値を示している。これは全設問中で最も低い正答率であるが、この結果も本区の生徒のみに特徴的な傾向ではなく、都および全国でも同様の結果となっている。この設問は封筒に投稿先の名前と住所を適切に書く問題である。

どちらの設問も、解答するためには指定された条件に従って書く力が必要になる。また、それに加え設問2三では、話し合いの内容を正確に把握する力が必要となる。これらの結果から、次の課題を読み取ることができる。一つは、文章で表すことに苦手意識をもつ生徒が半数近くいるということである。そのうち1割近い生徒については書くこと自体に抵抗感をもっていると考えられる。もう一つは、設問の内容を把握する力が十分でない生徒がいるということである。正確に内容を把握し、それに応じて自分の考えをもてるようにすることが課題である。

【授業改善の手だて】

上記の課題を解決するためには、小学校の学習内容を意識した授業づくりを通して、授業において既習事項の振り返りを確実に行うことが必要である。手紙の書き方等、文章の形式や書き方については、小学校でも学習している内容である。そのため、学習計画を作成するに当たっては、小学校国語科との学習の系統性を重視し、らせん的・反復的に繰り返しながら学習し、知識の定着を図ることが大切である。

また、「知識及び技能」と「話すこと・聞くこと」「読むこと」、または「知識及び技能」と「書くこと」の学習を関連付けて指導する必要がある。具体的には、説明的文章の「読むこと」の学習において、「意見と根拠との関係を理解するとともに、判断や考えを示す意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方を理解する」ことが求められている。また、「書くこと」の学習においては、「根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫」できるように授業を展開することが大切である。具体的な言語活動としては、立場によって意見が分かれる問題や、一つの結論に収められず、様々な結論を導くことができる話題など、多様な考え方ができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動が考えられる。

3 設問別集計結果一覧表

問題番号	問題形式	評価の観点					従来区分	領域	問題の概要	正答率(%)		
		関	話	書	読	言				知	活	区
1一	選				○	○	○	読むこと	「日本の文化の中には、海外でも広く知られているものがあります。……第一回は、弁当です。」について説明したものととして適切なものを選択する	68.0	68.1	63.9
1二	選				○	○	○	読むこと	「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する	64.3	63.8	61.5
1三	述	○			○		○	読むこと	「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く	92.1	90.9	91.2
1四	短				○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く	61.4	59.4	56.8
2一	選		○				○	話すこと・聞くこと	話し合いでの発言の役割について説明したものととして適切なものを選択する	82.9	82.3	80.4
2二	選		○				○	話すこと・聞くこと	話し合いでの発言について説明したものととして適切なものを選択する	72.0	71.9	69.7
2三	述	○	○				○	話すこと・聞くこと	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	62.3	62.5	60.4
3一	選			○			○	書くこと	意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する	89.1	88.1	87.4
3二	述	○	○				○	書くこと	広報誌の一部にある情報を用いて、意見文の下書きに「魅力」の具体例を書き加える	79.3	77.9	77.8
4	選				○	○	○	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する	80.8	79.8	78.7

【問題形式】(選)選択式、(短)短答式、(述)記述式

【評価の観点】(関)国語への関心・意欲・態度、(話)話す・聞く能力、(書)書く能力、(読)読む能力、(言)言語についての知識・理解・技能

【従来の区分】(知)「知識」に関する問題、(活)「活用」に関する問題

4 課題のある設問

※正答率、無解答率、誤答の状況などに課題の見られる設問より、1題を掲載。

問題番号	問題の概要	解答類型(%)										
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答	
大問2 三	話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」について自分の考えを書く	62.3	0.0	10.4	1.0						19.2	7.0

【解答類型】凡例：999…解答として求める条件を全て満たしている正答

999…設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

【解答状況】【話し合いの一部】を読み、話し合いの話題や方向を捉えた上で、空欄Aに「どうするか決まっていないうこと」について自分ならどのような考えを述べるかを書く問題である。正答するためには、話し合いの流れを踏まえ、「どうするか決まっていないうこと」とは何かを明確にして書く、「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を書く、実際に話すように書くという三つの条件を満たしている必要がある。区正答率は62.3%と6割を超えているものの、全設問中で二番目に低く、無解答率は7.0%と全設問中で最も高かった。誤答のうち、「どうするか決まっていないうこと」を解決する具体的な案を書いていないものが10.4%見られた。